

特定非営利活動法人 日本免疫学会

平成 27 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award

研究発表報告書

申請者氏名：金丸 和正

会員番号：0033268

所属・職名：筑波大学 免疫学研究室 博士研究員

出席会議名：The 2016 Midwinter Conference of Immunologist at Asilomar

発表論文タイトル：Tie2 Signaling Enhances Mast Cell Progenitor Adhesion to VCAM-1 through  $\beta$ 1 Integrin

実施結果：

1月23日から1月26日まで、「The 2016 Midwinter Conference of Immunologist at Asilomar」に参加した。連日朝から夜遅くにかけて、主にアメリカに拠点を置くPIの先生方の講演を聴いた。講演の内容は多岐にわたる分野の最先端の研究成果であり、非常に勉強になるとともに、日々の研究で狭まりがちな視野が開けた。特に2016年1月にNature誌に発表された、抗体の多様性形成機構に関する新知見の発表(Nature, 529:105, 2016., Dr. Antonio Lanzavecchia)は非常に印象的であり、大部分が解明されたと思われる分野でも更に新たな発見があるものだと感動した。ポスターセッションでは自身の研究を発表し、海外の研究者と研究成果に関して議論することができた。初の海外での発表ということもあり英語での議論にやや課題が残ったが、重要な点は伝えることができたので及第点であると感じている。

1月27日から1月28日までは、University of California, San Francisco (UCSF)にてDr. Lewis L. Lanierの研究室を見学し、留学中の日本人研究員の方に話を伺った。研究室に配備されている機械、器具などは自身が所属している研究室と大きな違いは見られなかったが、その他の研究を進めるための環境に差があると感じた。例えば実験試薬の補給に関して、UCSFでは大学でMediumや抗体などを一括管理しており、研究室の在庫が切れれば直ちに購入できる。また外部から試薬を購入する際も、製薬会社の多くはアメリカに工場が存在するため、輸入にかかる時間が無い。フローサイトメーターなどの機械にはオペレーターが常駐しており、セッティングは全て任せられる。マウスの飼育は全てバーコード管理となっており、マウスに不具合が出た場合は飼育室に常駐している職員から直ちに連絡が来る。実験室には他の研究室との間に壁が無いため、情報交換が行いやすい。日本で良い研究が出来ないわけではもちろん無いが、研究を推進する環境、すなわち良い研究を生み出す土台は、アメリカ(UCSF)の方が整っていると感じた。

この度の経験を生かし、近い将来、海外留学して研究を行いたいと考えている。